

第7回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会

日時：令和6年12月19日（木）

午後5時30分～7時

会場：塩尻市役所5階大会議室

次第

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 会議事項

- (1) 第6回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 学びのイメージに係る意見交換

テーマ

「新しい学校が目指す姿、どんなことができる学校にしていくか」

- ① 構成員からの提言 ～「地域」「情報」をキーワードに～

セイコーエプソン株式会社 中島 紀彦 様

信州大学農学部農学生命科学科 渡邊 修 様

NPO法人MEGURU 横山 暁一 様

- ② 「学びのイメージ素案」について意見交換（全体討議）

4. その他

次回の予定

【日時】 1月28日（火） 午後5時30分～7時

【場所】 塩尻市役所 5階 大会議室

【内容】 学びのイメージに係る意見交換

5. 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

(敬称略)
○座長

	区分	氏名 (座長○)	所属等
1	自治体	石坂 健一	塩尻市 副市長
2		○ 赤羽 高志	塩尻市教育委員会 教育長
3		根橋 範男	山形村教育委員会 教育長
4		百瀬 司郎	朝日村教育委員会 教育長
5		太田 幸一	塩尻市産業振興事業部先端産業振興室 室長
6	産業界	小松 稔	塩尻商工会議所 会頭
7		林 修一	塩尻市観光協会 会長
8	学識 経験者	渡邊 修	信州大学農学部農学生命科学科 准教授
9		小林 敏一	エプソン情報科学専門学校 学校長
10	地域	中島 紀彦	セイコーエプソン株式会社P総務部 部長
11		松本 宏隆	セイコーエプソン株式会社P事業戦略推進部 部長
12		横山 暁一	NPO法人MEGURU 代表理事
13		宮島 克夫	松本地域振興局 局長
14	同窓会	赤羽 誠治	塩尻志学館高等学校同窓会 会長
15		霜田 美奈	田川高等学校同窓会 会長
16	PTA	押田 博	塩尻志学館高等学校PTA 会長
17		菱田 岳士	田川高等学校PTA 会長
18		北沢 寿明	東筑摩塩尻PTA連合会 会長
19	小中学校 関係者	千村 哲朗	東筑摩塩尻校長会 代表 (広丘小学校 校長)
20		佐倉 俊	東筑摩塩尻校長会 代表 (塩尻中学校 校長)
21		永田 寛尚	松本養護学校 校長
22	再編 対象校	熊谷 のい	塩尻志学館高等学校 生徒代表
23		中舎水鏡莉	塩尻志学館高等学校 生徒代表
24		浅川 夢羅	塩尻志学館高等学校 生徒代表
25		小岩井 一	田川高等学校 生徒代表
26		鈴木 脩也	田川高等学校 生徒代表
27		池田 葵	田川高等学校 生徒代表
28		堀内 雅司	塩尻志学館高等学校 校長
29		宮入 清志	塩尻志学館高等学校 教職員
30		宮坂 幸登	田川高等学校 校長
31		守屋 秀行	田川高等学校 教職員

事務局

塩尻志学館高等学校		田川高等学校		高校再編推進室	
丸山 明久	教頭・事務局長	内川 源弘	教頭・副事務局長	原 多恵子	主幹指導主事
宮入 清志		守屋 秀行		宮嶋 直美	主任指導主事 (塩尻総合学科新校担当)
寺澤 顕孝				山崎 巖	主任指導主事 (塩尻総合学科新校副担当)
深澤和加枝					
高山 直之					
跡部 徹					
征矢 理啓					
中島 和成					

第6回 塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和6年(2024年)10月23日(水) 午後5時30分から午後6時50分		
場所	Core 塩尻		
出席 (敬称略、 ◎座長)	石坂 健一、◎赤羽 高志、根橋 範男、百瀬 司郎、太田 幸一、小松 稔、林 修一、小林敏一、中島 紀彦、赤羽誠治、霜田 美奈、押田 博、菱田 岳士、北沢 寿明、千村 哲朗、永田寛尚、熊谷のい、中舎水鏡莉、浅川夢羅、小岩井一、鈴木脩也、池田葵、堀内 雅司、宮入 清志、宮坂 幸登、守屋 秀行 以上26名		
欠席 (敬称略)	渡邊修、松本宏隆、横山暁一、宮島克夫、佐倉俊 以上5名	傍聴	6名(内オンライン2名)、報道1社
事務局	塩尻志学館高校：丸山教頭(事務局長)、寺澤教諭、高山教諭、跡部教諭、中島教諭 田川高校：内川教頭(副事務局長) 県教育委員会事務局：原主幹指導主事、宮嶋主任指導主事、山崎主任指導主事		
会議事項	(1) 校地検討会議報告 (2) 第5回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ (3) 学びのイメージに係る意見交換		
当日資料	次第、第5回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ(案)、会議資料、学校案内、配席図		

主な内容

- (1) 校地検討会議報告
 第1回校地検討会議 議長選出
 第2回校地検討会議各校の現状について情報交換
 新校の校地については懇話会の学びのイメージの進捗状況をみながら検討を進める → 質問意見なし
- (2) 第5回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ 質問、意見なし → 承認
- (3) 学びのイメージに係る意見交換
 ① 「育てたい生徒像」「目指す学校像」素案 について意見交換
 (全体討議)
 ・目指す学校像のキーワードに「居心地が良い学校」を入れたい
 ・進路や人間関係、クラブ活動のことで悩んでいる時に親身になって相談できる先生や友達がいることがとても大切
 ・新校でも生徒1人1人が希望や夢をもってそれを実現できる学校であって欲しい
 ・コミュニケーション能力が高い生徒を育てるとともに、生徒が学校に来やすい環境を作りたい
 ・学年やクラスだけでなく全校でコミュニケーションがある学校にしたい
 (グループワークで出た感想等)
 質問
 ・多様性という言葉が多用されているが、その中身は何を指しているのか
 ・「育てる」とは学習内容(カリキュラム)を通してなのか、体験を通してなのか
 意見感想
 ・やりたいことがあって、その真ん中に学校があり本物があるといい
 ・学校に行きたくなるような学校づくり
 ・インタラクティブにコミュニケーションをとりながら物事を進めていく
 ・上手に休み、力を出したいときに出せる力をつける
 ・塩尻志学館高校と田川高校のいいところを合わせた学びの場所
 ・「国際的な視野に立って」は、高校生にイメージしにくい
 塩尻志学館高校では留学する生徒が増えている。国際的な関心が高まっているように感じている
- ② 「どんなことを学べる学校にしたいか」意見交換(グループワーク)
 【Aグループ】
 ・自分ごととして、私が、という一人称で語れる生徒
 ・一人称で探究できる
 ・教職員のみならず、企業、県総合教育センター、地域のいろんな方々が参画できる学校
 ・特性として学びにくさを持っていても、自分の得意なことを伸ばすことのできる学校
 ・塩尻市のユニークな部分を活かす
 ・県内のみならず、全国的にみてもユニークな教育ができるのではないかと
 ・アーティストなど専門家と共に創作活動ができる
 ・生徒同士が教えあうことで学びにつながる
 ・本物に触れて学習できる環境

【Bグループ】

- ・育てたい生徒像について
 - 「国際的な視野」いろいろな外国語が学べる、多彩な科目、国際交流の推進、探究的な取組、ディベート情報発信、情報サイエンスが学べる、Steam教育、IT・デジタル、できれば工業が学べる
 - 「地域と協働」 地域と協力して探究活動、興味があることをつき詰めた、探究と協働
 - 「積極性、創造性」大学の授業選択をイメージ
 - 「他人を思いやり」アートやクラフトの学びを取り入れる
- ・目指す学校像について
 - 「多様な経験や多様な学び」・生徒が科目選択を柔軟にできる
 - ・進路実現における多様な科目が取れる
 - ・やりたい部活動など人を集めればすぐに作れるようにしたい
 - ・部活動も多様性、部活動も活発
 - ・趣味を学べる学校（趣味がつけられる学校）
 - ・ブドウ収穫などの多くの生徒が参加できる学校独自の活動を残してほしい
 - ・地域に出て学びができる学校
 - 「社会と生徒とともに」・自治、生徒会活動を自立して運営する

【Cグループ】

- ・学校を飛び出して人や社会と繋がる学びの展開から人に伝えたい、コミュニケーション力をつける学校
- ・高校時代から自分のやりたいこと好きなことを見つけられる学校
- ・社会で働くためにバランスよく集団での規律や常識を身につけてほしい
- ・土曜日でもオンラインで繋がり探究できるなど、授業や学校だけの学びから発展した学び
- ・興味あることをとことん学べる科目
- ・自由な学びの形
- ・休む時間を個々に決められる
- ・40人が一斉に1つの教室で学ぶだけでなく、学ぶ場所や居場所を選べる学びのスタイルがあるとよい
- ・オンラインで学習できるスペースやグループに分かれて少人数で学べるフレキシブルな学習スペースなどの環境
- ・地域を大切に、自分事として自己の課題を発見し協働し課題を解決できるようにしてほしい

【Dグループ】

- ・動きのあるアクティブな授業や主体性のある学びを実施していく
- ・オンライン授業やインターンシップなど積極的に外に出ていく
- ・生徒が好きなことを見つけられる、好きなことが学べるように、選択の範囲を広げていく
- ・学んだことを課題研究につなげて地域に飛び出し課題を追究していく
- ・1年次に基礎基本（特に5教科）をしっかりと学び、それが土台となり、社会に出てから成長する基となる
- ・1年生でしっかり基礎基本を学び、2・3年生で選択科目を学び選択の幅を広げ、興味を持ったものを学ぶ
- ・選択肢を広げることも大事
- ・好きな科目を学ぶことは意義があり無駄な科目はない
- ・プログラミング、マルチメディアなど情報を学ぶ
- ・農業を大切にしたい
- ・異なる学年の生徒と一緒に学んだり研究したりする授業があるとよい

【Eグループ】

- ・選択科目を多く、科目にないことも学べる
- ・得意を伸ばせる
- ・校外での学習に係る単位認定
- ・休みの場、特別視されない場所があると良い、中高接続のための特別支援の充実
- ・塩尻市のDXセンター、県総合教育センターと産学官民、新校が連携した教育
- ・ビジネス・情報系列の拡大（充実）
- ・専門の人の話を聞きあこがれを持ち、自分探しをする中で目標が見つけれられる
- ・科目選択や進路にあたり、卒業生、先輩方から話を聞く機会を増やしてほしい
- ・探究活動ができる施設、指導者がいる
- ・失敗しても学び続けられる雰囲気がある

➡（座長まとめ）

いろいろなアイデアが出た。これらを最後まで残せるようなものにしていきたい。次回は各分野の専門家の構成員の方からそれぞれの取組や新校の学びへのご提言をいただいて、さらに新しい学びの学校作りについて議論をしていきたい。

その他

【次回】 日時：12月19日（木） 会場：塩尻市役所5階大会議室 内容：学びのイメージの検討 構成員からの提言

学びのイメージ 「育てたい生徒像」「目指す学校像」 素案

◇ キーワード **つけたい力、伸ばしたい力 (■)** と **目指す学校の姿・学び (◇)** に整理

探究 (A) ◇	地域連携、貢献、地域の学校、みんなの学校 (G) ◇
課題発見 (B) ◇	社会を広くとらえる視野・世界とつながる (H) ■
主体性、自主性 (C) ■	開かれた学びの場、みんなの学校 (I) ◇
行動力、粘り強さ (D) ■	やりたいことをやれる、自己実現、可能性、ゆとり (J) ◇
多様性、多様な学び、普通のその先へ (E) ◇	コミュニケーション力 (K) ■
思いやり (他者理解尊重) (F) ■	居心地のよい学校 ◇

◇ 育てたい生徒像

□ : 整理 □ : 残した要素 赤字 : 追加

3	課題発見 (B) 地域 (G) たくましさ (D) → 粘り強さ 世界へ (H)	国際的な視野に立って、地域で課題を発見し、自分の道を切り開き、世界に羽ばたく生徒。くじけず！たくましく！
1	主体性(c)探究 (A) 自己実現 (J)	積極性、創造性、探究心、自己肯定感を高め、チャレンジする生徒 (自分の道を広げる、チャレンジ、積極性)
2	思いやり (F) 他者理解尊重 (F) コミュニケーション力 (K)	他者を思いやり他者を尊重し豊かな心を持つ生徒 (愛、共助の心、想像力)

◇ 目指す学校像

	多様性 (E) 他者理解 (F) 可能性 (J)	多様な経験や多様な人との出会い、多様性を認め、普通のその先へ！ 学校はオモシロイ！ (多様性の学校)	多様性が何をさすか曖昧なため、学びの多様性、他者尊重に整理
2	多様性 (E) 可能性 (I)	多様な経験、学び、人との出会い (選択) を通して、一人一人の可能性を広げられる学校 普通のその先へ！学校はオモシロイ！ (キャリア教育、個を大事に、個に寄り添った、個別最適な)	
3	地域 (G)	地域を学びのフィールドとして地域との共創を目指す学校	
1	自主性 (C) みんなの学校 (I)	社会と生徒とともに変化し発展する、生徒とともに作り続ける、生徒が主人公である学校 (教員も日々成長する、学び続ける、研修)	

学びのイメージ 「育てたい生徒像」「目指す学校像」 素案

◇ キーワード

つけたい力・伸ばしたい力	目指す学校の姿・学び
主体性（自主性）	やりたいことをやれる、自己実現、可能性、ゆとり
行動力	探究 課題発見
コミュニケーション力	多様性、多様な学び、普通のその先へ
他者尊重（思いやり 共助）	居心地のよい学校
粘り強さ	開かれた学びの場
社会を広くとらえる視野、世界とつながる	地域連携、貢献、地域の学校、みんなの学校

育てたい生徒像

自己肯定感を高め、積極的に創造し、探究しチャレンジする生徒	チャレンジする生徒	主体性 探究
豊かな心を持ち他者を尊重できる生徒	他者を尊重し互いを認め合う生徒	他者尊重 共助 コミュニケーション力
自分の道を切り開き、世界に羽ばたく生徒	羽ばたく生徒	行動力 粘り強さ 自己実現

◇ 目指す学校像

生徒が主人公となり、社会と生徒とともにつくり成長し続ける学校	生徒が主人公	自主性 みんなの学校
多様な経験、学び、人との出会いを通して一人一人の可能性を広げられる学校	出会い（人、学び、経験）可能性を引き出す	多様性 居心地のよい学校 可能性、ゆとり
地域を学びのフィールドとして地域との共創を目指す学校	地域と共創	地域 課題発見

その他：載せたいキーワード

* 普通のその先へ！学校はオモシロイ * 共助 * キャリア教育 * 個に寄り添った、* 個別最適化 * 教員も日々成長する、学び続ける

第6回懇話会グループワークまとめ

テーマ「どんなことを学べる学校にしたいか～具体的な学びの内容や取り組み～」

* 具体的な項目に下線

■生徒が主人公

主体性	・自分ごととして、私が、という一人称で語れる生徒
他者尊重	・失敗しても学び続けられる雰囲気がある ・社会で働くためにバランスよく集団での規律や常識を身につけてほしい
生徒会・自治	・ <u>自治、生徒会活動</u> を自立して運営する

■多様な学び人との出会い（内容、活動）

多様な学び、科目	・ <u>アーティストなど専門家と共に創作活動</u> ができる、 <u>アートやクラフトの学び</u> を取り入れる ・ <u>いろいろな外国語、多彩な科目、国際交流の推進、探究的な取組、ディベート</u> ・ <u>情報発信・情報サイエンスが学べる、Steam教育、IT・デジタル、できれば工業が学べる→情報活用</u> ・ <u>プログラミング、マルチメディアなど情報を学ぶ</u> ・ <u>ビジネス・情報系列の拡大（充実）</u> ・ <u>ブドウ収穫などの多くの生徒が参加できる学校独自の活動</u> を残してほしい ・ <u>農業を大切にしたい</u> ・ <u>趣味を学べる学校、趣味がつけられる学校</u> ・ <u>興味あることをとことん学べる科目</u>
基礎の充実	・ <u>1年次に基礎基本（特に5教科）</u> をしっかりと学び、それが土台となり、社会に出てから成長する基となる
学びの深化	・1年生でしっかりと基礎基本を学び、2・3年生で選択科目を学び選択の幅を広げ、興味を持ったものを学ぶ
多様な選択肢	・生徒が好きなことを見つけられる、好きなことが学べるように選択の範囲を広げる
柔軟な選択	・選択肢を広げることも大事 ・大学の授業選択をイメージ ・ <u>科目選択を柔軟にできる・進路実現における多様な科目が取れる</u>
単位認定	・校外での学習に係る <u>単位認定</u>
学びのスタイル	・ <u>生徒同士が教えあうこと</u> で学びにつながる ・動きのあるアクティブな授業や主体性のある学びを実施していく ・ <u>オンライン授業やインターンシップ</u> など積極的に外に出ていく
個別最適な学び	・特性として学びにくさを持っていても、自分の得意なことを伸ばすことのできる学校 ・休みの場、特別視されない場所があると良い、中高接続のための特別支援の充実 ・自由な学びの形・ <u>休む時間を個々に決められる</u> ・ <u>学ぶ場所や居場所を選べる学びのスタイル</u> があるとよい
学びの環境	・ <u>オンラインで学習できるスペース</u> や ・ <u>グループに分かれて少人数で学べるフレキシブルな学習スペース</u> などの環境 ・本物に触れて学習できる環境 ・探究活動ができる施設、指導者がいる
人との出会い	・ <u>専門の人の話を聞きあこがれを持ち、自分探しをする中で目標が見つけれられる</u> ・科目選択や進路にあたり、 <u>卒業生、先輩方から話を聞く機会を増やしてほしい</u> ・異なる学年の生徒が一緒に学んだり研究したりする授業があるとよい
部活動	・部活動も多様性、部活動も活発 ・やりたい部活動など人を集めればすぐに作れるようにしたい
可能性	・高校時代から自分のやりたいこと好きなことを見つけられる学校 ・得意を伸ばせる

■地域と共創

地域の特色	・塩尻市のユニークな部分を活かす ・県内のみならず、全国的にみてもユニークな教育ができるのではないか
連携	・ <u>企業、県総合教育センター、地域のいろいろな方が参画</u> できる学校 ・ <u>塩尻市DXセンター、県総合教育センターと産学官民、新校が連携した教育</u>
学びのフィールド	・地域に出て学びができる学校 ・学校を飛び出して人や社会と繋がる学びの展開から人に伝えたくなり、コミュニケーション力をつける学校 ・土曜日もオンラインで繋がり探究できるなど、授業や学校だけの学びから発展した学び ・オンライン授業や <u>インターンシップ</u> など積極的に外に出ていく
課題発見、探究	・地域を大切に自分事として自己の課題を発見し協働し課題を解決できる ・学んだことを課題研究につなげて地域に飛び出し課題を追究していく ・地域と協力して探究活動、興味があることをつき詰めた、探究と協働

【参考】

◆ 塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会

「学びのイメージ」 検討手順

